

〔論 文〕

トルコ諸都市の センター領域における交流空間に関する考察

鶴 田 佳 子

A Study of Communication Spaces in Urban Centers in Turkey

Yoshiko TSURUTA

The purpose of this study is to investigate the spatial characteristics of Turkish cities. On the basis of spatial examination of urban centers in 18 cities in the Western Anatolian region, the author drew their urban plans as well as the plans of the central areas of the following cities: İstanbul, Bursa, Balıkesir, Taraklı, Göynük, Mudurnu, Bolu, Safranbolu, Kastamonu, Nallıhan, Beypazarı, Konya, Bergama, Kütahya, Afyonkarahisar, Uşak, Tire and İzmir.

The urban centers have multiple functions as public spaces. This paper particularly focuses on the communication function. The author analyzed the elements which promote communication and attract people towards the centers of urban areas.

The following conclusions can be drawn from the observation and analysis. Historical buildings utilized for commercial purposes, for example, mosques, turkish baths (Hamam in Turkish), tea salons (Çayhane in Turkish), barber shops and open spaces like plazas and courtyards function as important communication space. Çayhane and barber shops are daily communication spaces. Mosques and plazas supply people with special spaces for religious festivities. Such urban areas are used only by men except in large cities.

Key words: Turkey (トルコ), urban space (都市空間), commercial area (商業空間), space configuration (空間構成), utilization of space (空間活用)

1. はじめに

トルコ諸都市のセンター領域は、トルコ語でチャルシュ¹と呼ばれる伝統的な商業空間を中心に新旧の要素が融合あるいは隣接しながら発展してきている²。都市の規模や発展の経緯によって構成は異なるもののチャルシュと新市街を中心にエリアは広がりを示し、多様な機能を担っている。本論文では、現地調査を実施してきた18都市を対象に、センター領域における多様な機能のうち、多くの人々が集い、交流するコミュニケーション機能に着目する。センター領域の交流空間としての形態を分析することで、トルコ諸都市の空間的特質を明確にしたい。

対象とする18都市は、マルマラ海地域、エーゲ海地域、中央アナトリア地域、黒海地域の調査実施都市³ (図1参照)、イスタンブール、ブルサ、ベルガマ、バルケシル、ギョイヌック、タラクル、ムドゥルヌ、ボル、ナルハン、ベイパザル、サフランボル、カスタモヌ、アフヨンカラヒサル、キュタフヤ、ウシャク、イズミール、ティレ、コンヤである。各都市において、都市全体の構造とセンター領域の現状を調査し、行政機関から地図及び都市計画等の情報を収集した。文献資料及び現地調査に基づき、都市図及びセンター領域の構成図を作図し、交流空間を分析する。



図1. トルコ調査対象18都市位置図

(●が調査対象都市)

2. センター領域の構成

調査した18都市についてセンター領域の構成を分類すると⁴、伝統的な商業空間であるチャルシュと発展し続ける新市街との位置関係から、分離型、拡張型、隣接型、融合型、分散型の5タイプに整理することができる。中でも拡張型と隣接型は6事例ずつある。いずれもチャルシュを核としながら、新市街が隣接する。拡張型は隣接する新市街とチャルシュとの境界線がなく、隣接型は明確な境界があり、新市街独自の核となる要素が見られる。4事例が該当する融合型は人口100万人以上の大都市である。市街地が他の事例に比べて広大であるため、チャルシュ周辺だけでなく、他の主要な都市施設を中心とするエリアが複数存在し、これらが融合してセンター領域を形成している。分離型は1事例のみであるが、新市街とチャルシュがそれぞれ独立して存在している。分散型も1事例のみである。チャルシュが全体の核的な役割を担っておらず、他の都市施設を核とする複数のエリアと並び、複数のセンター領域が分散した構造となっている。センター領域は、都市の規模やチャルシュと新市街の構成から都市ごとの特徴が窺えるものの、チャルシュのみで形成される分離型以外は新旧が融合した要素を多分に持ち合わせており、センター領域自体の境界はいずれも曖昧である。都市の発展とともに変化し続けるセンター領域であるが、本論文では、都市の多様な活動拠

点となる施設を有し、多くの人々が利用する公共性の高い空間を研究対象のセンター領域とする。また、センター領域が果たしている多様な機能のうち、人々の交流の場としての機能に着目するため、センター領域内の交流が発生する要素を都市ごとに確認する。(表1参照)

3. 交流空間の形態

都市における人々の交流空間として、人と人が会話を楽しむ日常的な交流から、不特定多数の人々が一堂に会す、祭りやイベントなどの非日常的な交流に至るまで、現地調査及び文献資料から得た情報により、交流内容と空間形態を見る。

表1に挙げたセンター領域の交流空間となる要素は「伝統的商業施設」「店舗群」「複合ビル」「宗教施設」「ハمام」「文化施設」「行政施設」「交通施設」「屋外空間」である。伝統的商業施設はトルコ語でベデステン⁵、アラスタ⁶、ハン⁷と呼ばれる施設が該当する。店舗群は販売を主とする店舗からサービスを提供するもの、商品を生産する工房に至るまで多様であるが、交流空間としては、喫茶店であるチャイハネ⁸と床屋の2つを挙げる。屋外空間は広場や街路、施設の中庭などのオープンスペースを指すが、特徴的な空間として広場を明記し、他の4項目については交流空間として実際の活用内容を取り上げ、オープンカフェ、定期市、イベント、歩行者専用空間の有無を確認する。街路は歩行者専用空間と

表 1. センター領域の交流空間要素一覧¹⁰

事例 NO.	都市名	都市部 の人口 ^a	地 域	都市 構成の タイプ	伝統的商業施設			店舗群		複合 ビル	宗教 施設	ハمام	文化 施設	行政 施設	交通 施設	屋外空間				
					ベデ ステン	アラ スタ	ハン	チャイ ハネ	床屋							広場	オープン カフェ	定期市	イベ ント	歩行者 専有空間
01	Safranbolu	49,014	黒海地域	分離	○	●	●	●	●		●	●	●	○	●	●	●	●		●
02	Taraklı	2,983	マルマラ海地域	拡張			○	●	●		●	○	●	●	●	◇	●	●		●
03	Göynük	3,998	黒海地域	拡張				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
04	Mudurnu	4,830	黒海地域	拡張				●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●
05	Tire	51,440	エーゲ海地域	拡張	○		●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●		●
06	Kastamonu	91,012	黒海地域	拡張	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
07	Uşak	180,414	エーゲ海地域	拡張	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
08	Nallıhan	12,457	アナトリア中央部	隣接				●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
09	Beyazır	35,775	アナトリア中央部	隣接	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	Bergama	59,366	エーゲ海地域	隣接	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
11	Bolu	119,898	黒海地域	隣接			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
12	Afyonkarahisar	173,100	エーゲ海地域	隣接	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●◇	●		●	●
13	Kütahya	235,685	エーゲ海地域	隣接	●		●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●		●
14	Konya	1,486,653	アナトリア中央部	融合			●	●	●	●	●		●	●	●	●◇	●			●
15	Bursa	1,905,570	マルマラ海地域	融合	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
16	İzmir	3,354,934	エーゲ海地域	融合	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●◇	●		●	●
17	İstanbul	13,120,596	マルマラ海地域	融合	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●◇	●		●	●
18	Balıkesir	265,747	マルマラ海地域	分散	●			●	●	●	●	●		●	●	●	●	● ^b		

a: 都市部の人口は 2010 年 b: 2005 年調査時は中心部で火曜市が立っていた ●該当する施設がある ○廃墟もしくは部分的な残り方をしている ◇公園

なっている場合に交流が発生していることが多いため、この特徴的な空間利用について記載する。敷地内のオープンスペースは宗教施設やハمامなど、交流空間として確認している施設の一部にあたるため、空間の活用形態であるオープンカフェやイベントなどを記載する。

事例別にセンター領域の構成図と交流空間要素を示したものが表 2-1 から表 2-5 である。18 都市のうち、イスタンブールに関しては人口 1,312 万人（2010 年⁹）と他の都市とは桁違いの人口規模であり、都市施設を核とする複数のゾーンからセンター領域が構成されているため、ヨーロッパ側、アジア側双方にセンター領域と認識できるエリアが複数ある。本論文ではヨーロッパ側のセンター領域のうち、新市街の中心軸となっているタクシム広場を起点とするイスティクル通り、歴史地区に位置するグランドバザール周辺とエジプト市場周辺の 3 カ所を取り上げ、交流空間としての形態について検証する。交流空間を示す事例写真を表 3 にまとめる。以下、交流を促す 16 の要素について、チャルシュ内に位置する商業活動に関連する要素と他の公共施設、交流の場としての屋外空間の順にそれぞれの特徴を挙げる。

1) チャルシュにおける交流空間

① 伝統的商業施設

ベデステン、アラスタ、ハンはいずれもチャルシュの核となる商業施設であり、商品の売買だけでなく、情報交換や人との交流を求めて、あるいは歴史建造物としての施設見学のため、住民だけでなく、観光客も多く訪れる要素となっている。いずれも一施設内に多数の店舗や事務所、倉庫などが混在しており、中にはチャイハネや食堂などのサービス施設もある。商品の売買で発生するコミュニケーション以外にも滞留できる要素が含まれている。また、オスマン帝国時代から継承されてきた歴史建造物も多く、建物の修復後、観光用の商業施設として再生する施設の数も近年増えている。ハンは中庭を有する建築形態をとっており、中庭がオープンカフェになっている事例（写真 3-01, 02）が多い。

② チャイハネ

チャルシュ内に点在し、日常の交流空間として機能している（写真 3-03）。基本的に男性の交流の場となっており、チャイを片手に友人との会話を楽しむだけでなく、カードゲームなどを楽しむ姿も見られる。季節によっては室内だけでなく、路上や広場に机と椅子を並べ（写真 3-04）、屋外でチャイを飲

表 2-1. 都市別センター領域構成図¹¹ 及び交流空間要素一覧




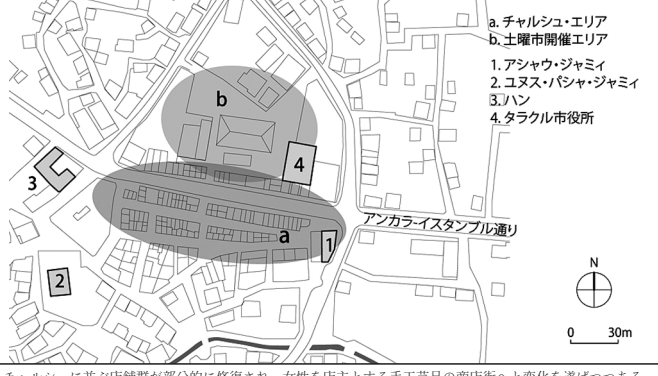


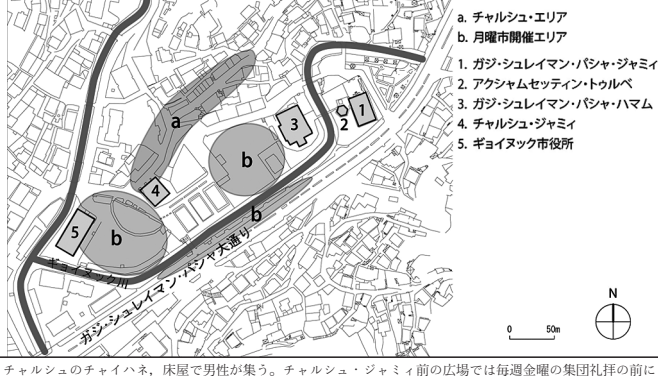


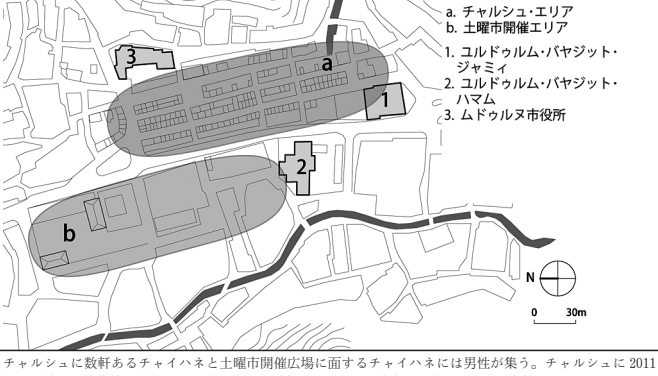

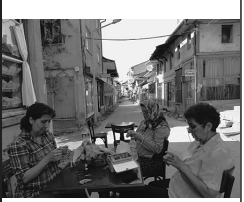

事例 01 都市名 Safranbolu 都市構成のタイプ 分離型 人口 (2010 年) 49,014 人		黒海地域 センター領域の交流空間 伝統的商業施設 店舗群 複合ビル その他施設 屋外空間		 <p> a. チャルシュ・エリア b. 土曜市開催エリア c. 動物市開催エリア 1. ジンジ・ハمام 2. カスダウル・ジャミイ 3. アラスタ 4. ジンジ・ハン 5. イゼット・バジャ・ジャミイ </p> <p> 谷底にある旧市街全体がチャルシュであり、センター領域である。新市街は離れた高台に位置する。交流空間として、諸施設と定期市がある。歴史建造物の数々は観光客を引き付ける要素であり、定期市はこの住民だけでなく、近隣の村からやってくる人々の交流の場となっている。 </p>	 <p>アラスタの中庭のオープンカフェ</p>  <p>動物市で近隣の村から集まった人々</p>
事例 02 都市名 Taraklı 都市構成のタイプ 拡張型 人口 (2010 年) 2,983 人		黒海地域 センター領域の交流空間 伝統的商業施設 店舗群 複合ビル その他施設 屋外空間		 <p> a. チャルシュ・エリア b. 土曜市開催エリア 1. アジャウ・ジャミイ 2. ユヌス・バジャ・ジャミイ 3. ハン 4. タラクル市役所 </p> <p> チャルシュに並ぶ店舗群が部分的に修復され、女性を店主とする手工芸品の商店街へと変化を遂げつつある。交流が減りつつあったチャルシュに観光客との交流が生まれ始めている。土曜市は周辺の村からも多くの人が訪れ、週に 1 回の交流がなされ、野菜販売エリアの近くにチャイハネの椅子が並ぶ。 </p>	 <p>土曜市のみ椅子が並ぶオープンカフェ</p>  <p>修復リニューアルしたチャルシュ</p>
事例 03 都市名 Göynük 都市構成のタイプ 拡張型 人口 (2010 年) 3,998 人		黒海地域 センター領域の交流空間 伝統的商業施設 店舗群 複合ビル その他施設 屋外空間		 <p> a. チャルシュ・エリア b. 土曜市開催エリア 1. ガジ・シュレイマン・バジャ・ジャミイ 2. アクシャムセッティン・トルベ 3. ガジ・シュレイマン・バジャ・ハمام 4. チャルシュ・ジャミイ 5. ギョイスツク市役所 </p> <p> チャルシュのチャイハネ、床屋で男性が集う。チャルシュ・ジャミイ前の広場では毎週金曜の集団礼拝の前に市長を中心に商店主の男性が集まり、商業の発展を共に祈る。市役所横の広場の一角にオープンカフェがあり、月曜日には近隣の村からやってきた男性が集い、村の生産物販売エリアは女性で賑わう。 </p>	 <p>月曜市のオープンカフェ</p>  <p>女性による村の生産物販売エリア</p>
事例 04 都市名 Mudurnu 都市構成のタイプ 拡張型 人口 (2010 年) 4,830 人		黒海地域 センター領域の交流空間 伝統的商業施設 店舗群 複合ビル その他施設 屋外空間		 <p> a. チャルシュ・エリア b. 土曜市開催エリア 1. コルドウルム・バヤジット・ジャミイ 2. コルドウルム・バヤジット・ハمام 3. ムドウルヌ市役所 </p> <p> チャルシュに数軒あるチャイハネと土曜市開催広場に面するチャイハネには男性が集う。チャルシュに 2011 年に開館した博物館で女性による手工芸品が販売されている。路上では作品をつくる女性達の姿が見られる。土曜市の村の生産物販売エリアは、村からやってきた女性で賑わう。 </p>	 <p>土曜市の広場に面するチャイハネ</p>  <p>路上で手工芸品を制作する女性達</p>

表 2-2. 都市別センター領域構成図及び交流空間要素一覧


事例 05		エーゲ海地域	
都市名		Tire	
都市構成のタイプ		拡張型	
人口 (2010 年)		51,440 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	○
		アラスタ	
		ハン	●
	店舗群	チャイハネ	●
		床屋	●
複合ビル			●
その他施設	宗教施設	ハمام	○
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
		広場	●
屋外空間	オープンカフェ	定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 火曜市エリア

1. ジャミイ
2. ベデステン
3. ハン
4. ハمام
5. ティレ市役所

チャルシュと市役所横のメインストリートを中心に火曜市が開催される。大通りもチャルシュ内の街路も車両規制され、露店が並ぶ。チャルシュの常設店舗も火曜は活気を帯びる。ハンの中庭にオープンカフェがある。ハمامは店舗として活用されている。

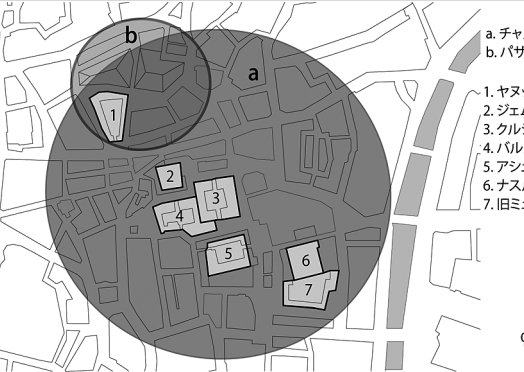


火曜市はチャルシュの通りにも露店が並ぶ



大通りも車両規制し、火曜市の会場となる


事例 06		黒海地域	
都市名		Kastamonu	
都市構成のタイプ		拡張型	
人口 (2010 年)		91,012 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
		ハン	●
	店舗群	チャイハネ	●
		床屋	●
複合ビル			●
その他施設	宗教施設	ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
		広場	●
屋外空間	オープンカフェ	定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. パザル・エリア

1. ヤヌック・ハン
2. ジェム・スルタン・ベデステン
3. クルシュル・ハン
4. パルカバヌ・ハン
5. アシュル・エフエンディ・ハン
6. ナスラフ・ジャミイ
7. 旧ミュニレ・メドレッセ

ナスラフ・ジャミイ前の広場が整備され、オープンカフェやイベントの会場として活用されている。かつての神学校メドレッセは手工芸品の市場として再生し、中庭はカフェになっている。パルカバヌ・ハンの中庭をカフェと展覧会場とし、クルシュル・ハンは全館、ホテルとして再生した。

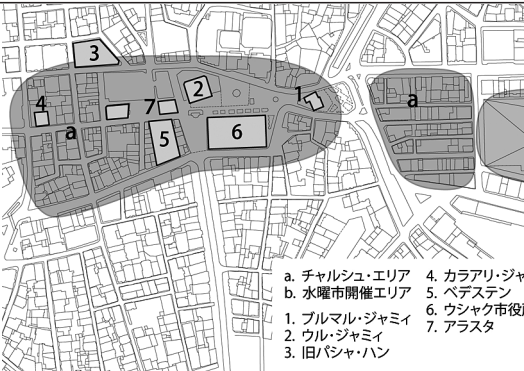


ナスラフ・ジャミイ前の広場



旧ミュニレ・メドレッセの中庭に並ぶカフェ


事例 07		エーゲ海地域	
都市名		Uşak	
都市構成のタイプ		拡張型	
人口 (2010 年)		180,414 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
		ハン	●
	店舗群	チャイハネ	●
		床屋	●
複合ビル			●
その他施設	宗教施設	ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
		広場	●
		オープンカフェ	●
屋外空間	定期市	イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 水曜市開催エリア

1. プルマル・ジャミイ
2. ウル・ジャミイ
3. 旧パジャ・ハン
4. カラアリ・ジャミイ
5. ベデステン
6. ウシャク市役所
7. アラスタ

市役所前広場から西側と大通りをはさんで東側にチャルシュが二分されている。西側は街路が歩行者専有空間として整備されている。東側のチャルシュは水曜市開催の野菜市場と隣接し、工房もある。ウル・ジャミイ横の広場はイベントに活用されている。




ベデステン北側は歩行者専有空間である



ウル・ジャミイ横の広場


事例 08		アナトリア中央部	
都市名		Nallıhan	
都市構成のタイプ		隣接型	
人口 (2010 年)		12,457 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	
		アラスタ	
		ハン	●
	店舗群	チャイハネ	●
		床屋	●
複合ビル			●
その他施設	宗教施設	ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
		広場	●
屋外空間	オープンカフェ	定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 月曜市開催エリア

1. コジャ・ハン
2. ナスフ・パジャ・ジャミイ
3. ナルバン市役所

チャルシュ内に何軒かチャイハネがあり、1軒はテラスが半屋外に広がっており、男性がゲームを楽しんでいる。月曜市の立つ広場の中央に銅像があり、式典にも利用されている。


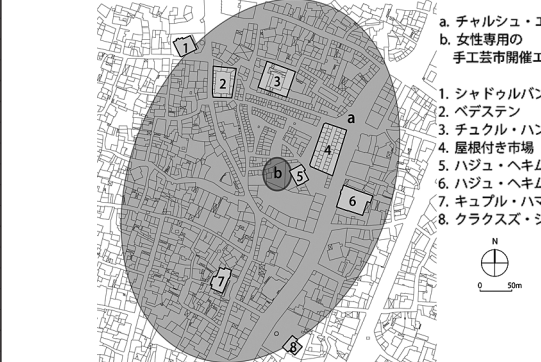
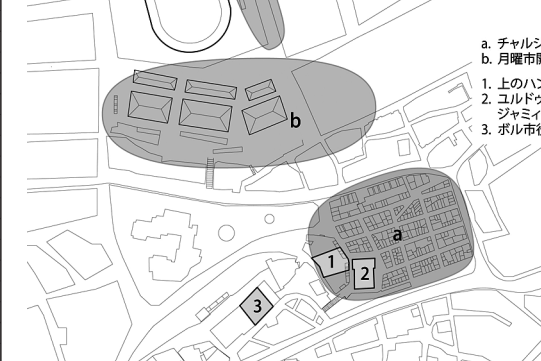



チャイハネのテラス席



月曜市開催エリアの広場は式典会場にもなる

表 2-3. 都市別センター領域構成図及び交流空間要素一覧

事例 09		アナトリア中部
都市名		Beyazari
都市構成のタイプ		隣接型
人口 (2010 年)		35,775 人
センター領域の交流空間		
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン ○
		アラスタ ●
	店舗群	ハン ●
		チャイハネ ●
		床屋 ●
その他施設	複合ビル ●	
	宗教施設	●
		●
		●
		●
屋外空間	広場	●
		●
		●
		●
	オープнкаフェ ●	●
 <p>a. チャルシュ・エリア b. 観光市開催エリア c. 水曜市開催エリア</p> <p>1. クルシュンル・ジャミイ 2. スルハン 3. インジルリ・ジャミイ 4. タバクハネ・ジャミイ 5. ハマム 6. メルケジ・イエニ・ジャミイ</p> <p>伝統的な工房が並ぶチャルシュはスルハンの修復工事及び路面の舗装工事がなされ、観光客を意識した歩行者空間の整備がなされている。チャルシュ内はチャイハネと床屋が複数あり、男性の交流空間が点在、充実している。観光市は伝統的な住宅が並ぶ広場周辺に週末、開催される。</p>		
事例 10		エーゲ海地域
都市名		Bergama
都市構成のタイプ		隣接型
人口 (2010 年)		59,366 人
センター領域の交流空間		
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン ●
		アラスタ ●
	店舗群	ハン ●
		チャイハネ ●
		床屋 ●
その他施設	複合ビル ●	
	宗教施設	●
		●
		●
		●
屋外空間	広場	●
		●
		●
		●
	オープнкаフェ ●	●
 <p>a. チャルシュ・エリア b. 女性専用の手工芸市開催エリア</p> <p>1. シャドウルバン・ジャミイ 2. ベデステン 3. チュクル・ハン 4. 屋根付き市場 5. ハジュ・ヘキム・ジャミイ 6. ハジュ・ヘキム・ハマム 7. キュブル・ハマム 8. クラクス・ジャミイ</p> <p>チャルシュはベデステンやハマムの修復工事、街路の舗装工事など、伝統的な空間の保存、修復が活発になされている。チャルシュは男性の集う姿ばかりであるが、一角に女性のための手工芸品販売エリアができた。</p>		
事例 11		黒海地域
都市名		Bolu
都市構成のタイプ		隣接型
人口 (2010 年)		119,898 人
センター領域の交流空間		
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン
		アラスタ
	店舗群	ハン ●
		チャイハネ ●
		床屋 ●
その他施設	複合ビル ●	
	宗教施設	●
		●
		●
		●
屋外空間	広場	●
		●
		●
		●
	オープнкаフェ ●	●
 <p>a. チャルシュ・エリア b. 月曜市開催エリア</p> <p>1. 上のハン 2. ユルドウルム・バヤジット・ジャミイ 3. ボル市役所</p> <p>チャルシュは市役所を中心とする新市街の一角の高台に位置し、モスクとハン、店舗群から構成される。ハンの中庭や月曜市開催エリアにもチャイハネがある。月曜市は広場と市場施設による規模の大きな定期市となっている。市役所前の広場も常に多くの利用が見られる。</p>		
事例 12		エーゲ海地域
都市名		Afyonkarahisar
都市構成のタイプ		隣接型
人口 (2010 年)		173,100 人
センター領域の交流空間		
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン ●
		アラスタ ●
	店舗群	ハン ●
		チャイハネ ●
		床屋 ●
その他施設	複合ビル ●	
	宗教施設	●
		●
		●
		●
屋外空間	広場	●
		●
		●
		●
	オープнкаフェ ●	●
 <p>a. チャルシュ・エリア</p> <p>1. 城塞 2. イエニ・ジャミイ 3. クラ・ジャミイ 4. タシュハン 5. ベデステン 6. オトバザル・ジャミイ 7. ヨンジャ・アルト・ジャミイ 8. ゲディック・アフメット・バシャ・キュリエ</p> <p>岩山にそびえる城塞のふもとにベデステンとタシュハンを中心としたチャルシュが位置する。業種ごとに店舗が集まり、伝統産業の工房も多く残っている。チャルシュの北側に市役所を中心とする新市街があり、市役所前の広場では式典が開催される。</p>		



毎週末に開催される観光市



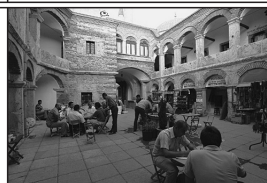
チャルシュ内のチャイハネ



女性のための手工芸品販売エリア



モスク横の広場に椅子を並べるチャイハネ



ハンの中庭に椅子を並べるチャイハネ



市役所前の広場




チャルシュに工房も多く、業種で分かれている



市庁舎前の広場で式典が行われる

表 2-4. 都市別センター領域構成図及び交流空間要素一覧


事例 13		エーゲ海地域	
都市名		Kütahya	
都市構成のタイプ		隣接型	
人口 (2010 年)		235,685 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
	店舗群	ハン	●
		チャイハネ	●
複合ビル		床屋	●
その他施設	その他施設	宗教施設	●
		ハمام	○
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
屋外空間	屋外空間	広場	●
		オープンカフェ	●
		定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 歩行者専有空間

1. サッデディン・ジャミイ
2. ブユック・ベデステン
3. クチュック・ベデステン
4. タクバジュラル・ジャミイ
5. ビリンチ・ハン
6. ウル・ジャミイ

チャルシュにはモスクの他、2つのベデステンとハンといった歴史建造物が立ち並び、多くのチャイハネが点在する。チャルシュから市役所周辺の新市街へは銀行やレストランが並ぶ賑やかな歩行者専有空間がのびている。

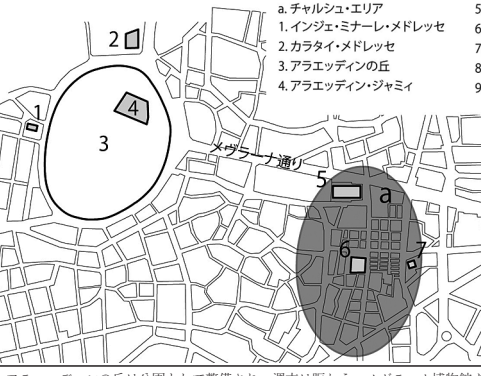


ベデステンの入口のチャイハネ



新市街の軸となる歩行者専有空間


事例 14		アナトリア中央部	
都市名		Konya	
都市構成のタイプ		融合型	
人口 (2010 年)		1,486,653 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
	店舗群	ハン	●
		チャイハネ	●
複合ビル		床屋	●
その他施設	その他施設	宗教施設	●
		ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
屋外空間	屋外空間	広場	●◇
		オープンカフェ	●
		定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 歩行者専有空間

1. インジェ・ミナレ・メドレッセ
2. カラタイ・メドレッセ
3. アラエディンの丘
4. アラエディン・ジャミイ
5. 県庁
6. カブ・ジャミイ
7. アジジエ・ジャミイ
8. セリミエ・ジャミイ
9. メヴラーナ博物館

アラエディンの丘は公園として整備され、週末は賑わう。メヴラーナ博物館までのメヴラーナ通りが都市の中心軸となり、中間地点に県庁と広場、その南側にチャルシュが広がる。旧神学校や博物館をはじめとする歴史建造物には観光客が集まる。

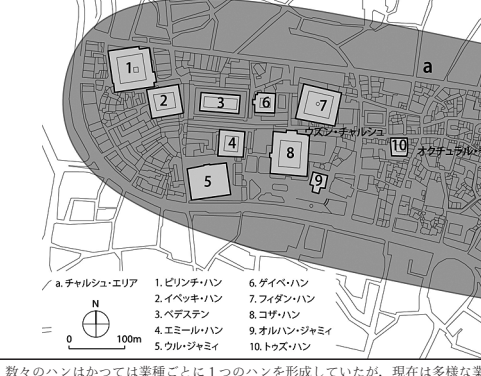


チャルシュ内の店にお茶を宅配する様子



アラエディンの丘からメヴラーナ通りへ


事例 15		マルマラ海地域	
都市名		Bursa	
都市構成のタイプ		融合型	
人口 (2010 年)		1,905,570 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
	店舗群	ハン	●
		チャイハネ	●
複合ビル		床屋	●
その他施設	その他施設	宗教施設	●
		ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
屋外空間	屋外空間	広場	●
		オープンカフェ	●
		定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 歩行者専有空間

1. ビリンチ・ハン
2. イベッキ・ハン
3. ベデステン
4. エミール・ハン
5. ウル・ジャミイ
6. ガイベ・ハン
7. フィダン・ハン
8. コザ・ハン
9. オルハン・ジャミイ
10. トゥズ・ハン

数々のハンはかつては業種ごとに1つのハンを形成していたが、現在は多様な業種が混在して店舗と倉庫、オフィスとして活用されているものがほとんどである。チャルシュ内の街路、広場、ハンの中庭が歩行者空間として整備され、多くの人で賑わっている。

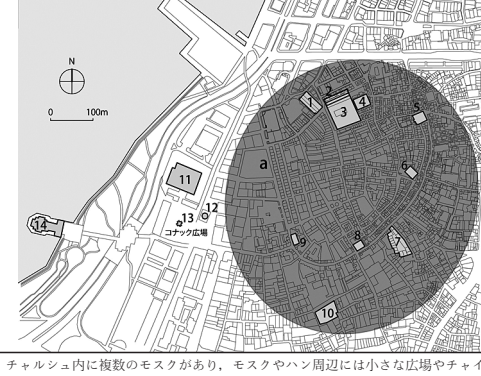


チャルシュ内にはほぼ歩行者専有空間



ウル・ジャミイ横の広場


事例 16		エーゲ海地域	
都市名		Izmir	
都市構成のタイプ		融合型	
人口 (2010 年)		3,354,934 人	
センター領域の交流空間			
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●
		アラスタ	●
	店舗群	ハン	●
		チャイハネ	●
複合ビル		床屋	●
その他施設	その他施設	宗教施設	●
		ハمام	●
		文化施設	●
		行政施設	●
		交通施設	●
屋外空間	屋外空間	広場	●◇
		オープンカフェ	●
		定期市	●
		イベント	●
		歩行者専有空間	●




a. チャルシュ・エリア
b. 歩行者専有空間

1. チャカル・ハン
2. バグル・ベデステン
3. クズラル・アウス・ハン
4. ヒサル・ジャミイ
5. ショドル・ハン・ジャミイ
6. クスター・ネ・バザル・ジャミイ
7. アバジュ・ハン
8. パンジュラック・ジャミイ
9. ケメル・アルト・ジャミイ
10. サレブ・ハン・ジャミイ
11. イズミール市役所
12. コナック・ジャミイ
13. 時計台
14. 船着き場

チャルシュ内に複数のモスクがあり、モスクやハン周辺には小さな広場やチャイハネなどの滞在スペースがある。チャルシュの入口にコナック広場があり、水辺の歩行者空間とチャルシュを連繋する役割を果たしつつ、観光客と市民たちの憩いの場を提供している。


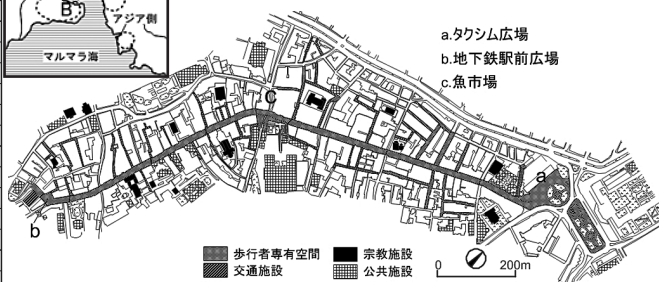










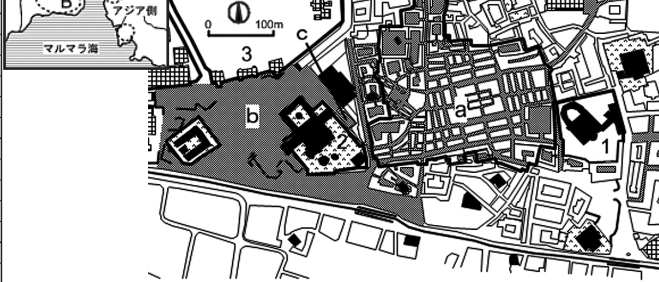






コナック広場で遊ぶ子供たち


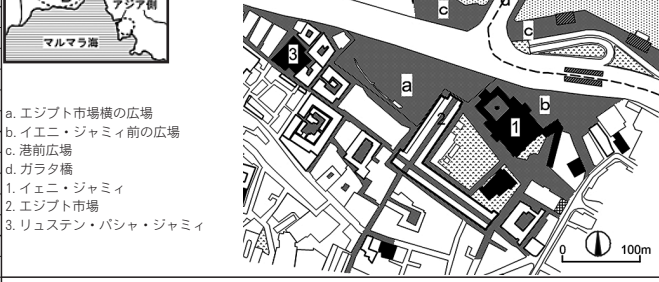






海岸沿いの歩行者空間にカフェが並ぶ

表 2-5. 都市別センター領域構成図及び交流空間要素一覧

事例 17-1		マルマラ海地域				
都市名	Istanbul					
都市構成のタイプ	融合型					
人口 (2010 年)	13,120,596 人					
センター領域の交流空間						
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●			
		アラスタ	●			
	店舗群	ハン	●			
			●			
その他施設	宗教施設	チャイハネ	●			
		床屋	●			
	複合ビル		●			
屋外空間	広場	宗教施設	●			
		ハمام	●			
	オープнкаフェ	文化施設	●			
			●			
その他施設	行政施設	行政施設	●			
		交通施設	●			
	交通施設		●			
屋外空間	広場	広場	●◇			
		オープнкаフェ	●			
	定期市	定期市	●			
			●			
その他施設	イベント	イベント	●			
		歩行者専有空間	●			
	歩行者専有空間		●			
<p>イスタンブール市中心部ヨーロッパ側 A 地域、新市街の中心に位置する。タクシム広場は大きなイベントも開催され、歩行者専有空間であるイスティクル通りは毎日、多くの若者が集まり、常に祭りのような賑わいである。周辺にはレストランやカフェ、映画館など立ち並んでいる。</p>						

事例 17-2		マルマラ海地域				
都市名	Istanbul					
都市構成のタイプ	融合型					
人口 (2010 年)	13,120,596 人					
センター領域の交流空間						
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●			
		アラスタ	●			
	店舗群	ハン	●			
			●			
その他施設	宗教施設	チャイハネ	●			
		床屋	●			
	複合ビル		●			
屋外空間	広場	宗教施設	●			
		ハمام	●			
	オープнкаフェ	文化施設	●			
			●			
その他施設	行政施設	行政施設	●			
		交通施設	●			
	交通施設		●			
屋外空間	広場	広場	●			
		オープнкаフェ	●			
	定期市	定期市	●			
			●			
その他施設	イベント	イベント	●			
		歩行者専有空間	●			
	歩行者専有空間		●			
<p>イスタンブール市中心部ヨーロッパ側 B 地域、旧市街の中心部に位置する。グランドバザールを中心に商業エリアが広がる。ほとんどが歩行者専有空間であり、多くの人で常に賑わっている。隣接するベヤジット広場ではコンサートや本のフェアなどイベントの会場としても活用されている。</p>						

事例 17-3		マルマラ海地域				
都市名	Istanbul					
都市構成のタイプ	融合型					
人口 (2010 年)	13,120,596 人					
センター領域の交流空間						
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●			
		アラスタ	●			
	店舗群	ハン	●			
			●			
その他施設	宗教施設	チャイハネ	●			
		床屋	●			
	複合ビル		●			
屋外空間	広場	宗教施設	●			
		ハمام	●			
	オープнкаフェ	文化施設	●			
			●			
その他施設	行政施設	行政施設	●			
		交通施設	●			
	交通施設		●			
屋外空間	広場	広場	●			
		オープнкаフェ	●			
	定期市	定期市	●			
			●			
その他施設	イベント	イベント	●			
		歩行者専有空間	●			
	歩行者専有空間		●			
<p>イスタンブール市中心部ヨーロッパ側 B 地域の入口、金角湾に面する港前広場である。船着き場は連絡船の発着だけでなく、焼き魚サンドを売る船も横付けされる。エジプト市場横の広場では断食月になると食事を提供するテントが設置される。</p>						





事例 18		マルマラ海地域				
都市名	Balıkesir					
都市構成のタイプ	分散型					
人口 (2010 年)	265,747 人					
センター領域の交流空間						
商業施設	伝統的商業施設	ベデステン	●			
		アラスタ	●			
	店舗群	ハン	●			
			●			
その他施設	宗教施設	チャイハネ	●			
		床屋	●			
	複合ビル		●			
屋外空間	広場	宗教施設	●			
		ハمام	●			
	オープнкаフェ	文化施設	●			
			●			
その他施設	行政施設	行政施設	●			
		交通施設	●			
	交通施設		●			
屋外空間	広場	広場	●			
		オープнкаフェ	●			
	定期市	定期市	●			
			●			
その他施設	イベント	イベント	●			
		歩行者専有空間	●			
	歩行者専有空間		●			
<p>センター領域は複数あり、図はかつて中心的な役割を果たしていたチャルシュ・エリアである。伝統的なベデステンに加え、ホール空間の野菜市場や複合施設のハッサンババ市場など、商業施設が多数あり、多くの人を引き付けている。2005 年の調査時は火曜日は火曜市がチャルシュ一帯で開催されていたが、その後、移転した。</p>						

表 3. 交流空間写真一覧

3-01	都市名	Kastamonu	3-02	都市名	İzmir	3-03	都市名	Kütahya
	内容	ハン中庭カフェと展覧会		内容	ハン中庭のカフェ		内容	チャイハネ
3-04	都市名	Kütahya	3-05	都市名	Göynük	3-06	都市名	İstanbul
	内容	チャイハネ周辺		内容	モスク前広場		内容	モスク内部
3-07	都市名	İstanbul	3-08	都市名	İstanbul	3-09	都市名	İstanbul
	内容	モスクの中庭		内容	港前広場		内容	エジプト市場横広場
3-10	都市名	Göynük	3-11	都市名	Beypazarı	3-12	都市名	İstanbul
	内容	木の下のオープンカフェ		内容	定期市		内容	断食月の露店
3-13	都市名	İstanbul	3-14	都市名	İstanbul	3-15	都市名	İstanbul
	内容	工芸品市		内容	イスティクラル通り		内容	デモ行進
3-16	都市名	İstanbul	3-17	都市名	İzmir	3-18	都市名	İstanbul
	内容	魚レストラン街		内容	海沿いの遊歩道		内容	二重構造のガラタ橋

みながらひと時を楽しんでいる。

③ 床屋

チャルシュ内に必ずある床屋は、いずれも男性に散髪や髭の手入れのために利用される。通常の散髪以外に、日々の礼拝でモスクに赴く際に髭の手入れのため立ち寄る男性もいる。手入れをしてもらわない場合も礼拝時間の少し前になるとモスク近くの床屋へ集まり、チャイを飲む。すべての床屋が該当する訳ではないが、多くは礼拝時間までを共に過ごす交流サロンの役割を果たしている。

④ 複合ビル

チャルシュ内にある場合と隣接、あるいは離れて立地する場合がある。複合ビルには複数の店舗があるだけでなく、伝統的な商業施設と同じように施設内にチャイハネなどの滞留可能な場所や、施設によっては敷地内に広場的な空間が計画的に設置されているものもあり、施設内での交流空間が存在する。

2) 公共施設

公共施設は施設ごとの目的に合わせて多くの人を集める要素となっている。以下、宗教施設、ハمام、文化施設、行政施設、交通施設等について交流の場としての特徴的な利用状況をまとめる。

① 宗教施設

どの都市にも複数のモスクがあり、特に金曜日の集団礼拝時には多くの人、特に男性がモスクに集まる。ギョイヌックでは毎週金曜の集団礼拝の前にモスク前の広場（写真3-05）でチャルシュの店主である男性達と宗教指導者、市長が集まり、商売繁盛を共に祈る。モスクを中心とする複合都市施設キュリエはモスクだけでなく神学校やハمام、市場施設を併設する場合もあり、祈りの時間だけでなく、多くの人を引き付ける要素となっている。神学校が商業施設として再活用されている事例が複数見られる。一方、宗教的な機能だけでなく、歴史建造物を活かした観光要素も大きい。写真3-06は観光客で賑わうイスタンブールの通称ブルーモスク内部のホール空間である。イスタンブールのような観光地では、モスクの中庭で日差しを避けながら休憩をとる観光客もいる（写真3-07）。

② ハمام

キュリエの一部として建設されたハمامも多々あるが、公衆浴場として地域のコミュニティの場の機能を果たしてきたため、特に着目する。規模の大きなハمامでは男性用と女性用のエリアに分かれており、規模の小さなものになると曜日や時間で男性と女性の使用時間帯を分けて利用している。ハمامは入口が大きなホール空間の脱衣スペースになっている。このホールでは入浴後に汗がひくまでチャイ等を飲みながら水分補給をし、居合わせた人たちと会話を楽しむ。現在は住民の利用が減っており、歴史建造物としての魅力と垢すりやマッサージのサービスを活かし、観光客中心のコミュニティ施設として機能しているものも多い。また、修復した建物をコンサートサロンや地域の伝統工芸を紹介する文化施設として再活用しているハمامもある。

③ 交通施設

交通施設として、鉄道駅、バスターミナル、船着き場等が挙げられる。交通機関を利用する人の流れが常時発生し、交通施設周辺には同時に多くの人が利用可能な広場空間が存在する。広場には乗降客対象の売店や露店、滞留スペースとしてオープンカフェなどがある。船着き場前の広場には船に乗る目的以外に海を眺める人や釣りを楽しむ人の姿も見られる（写真3-08）。

3) 屋外空間

屋外空間として広場、街路、敷地内のオープンスペースが挙げられる。まず、空間として広場に注目し、次に街路と敷地内のオープンスペースも合わせて、そこでの交流内容について特徴的なものを抽出する。

① 広場

18都市全てにおいて定期市やイベント等で広場が活用されている。日常的に親しまれているだけでなく、広がりをもった大空間であるため、イベントなどの晴れやかな場としても機能し、多くの人を集め、多様な交流が発生する場となっている。イスタンブールのエジプト市場横の広場（写真3-09）では断食月になると断食明けの食事を無償で提供するテント（写真3-09左手のストライプ柄の巨大なテント）が

設置され、夕方になると行列ができる。広場は通常からエジプト市場、その横のモスクと目の前の船着き場を訪れる人が利用し、賑わいを見せているが、断食月などの宗教的な行事の関連する日はさらに遠方からも訪れる人が増える。

② オープンカフェ

チャイハネには多くの男性がチャイと会話を楽しみに集まるが、気候の良い季節になると店前の路上に机や椅子が張り出され、屋外でひと時を過ごす。広場やハンの中庭の木陰やパラソルの下にカフェスペースができる（写真3-01, 02, 10）。

③ 定期市

週に1, 2度、広場や街路に野菜や衣類など日用品の露店が並ぶ定期市（写真3-11）が開催される。地域の住民と露天商とのコミュニケーションが見られる他、地方都市の場合には都市周辺の村からも多くの人が集まり、畑でとれた生産物や加工品を販売する特別なエリアが設けられている。この村の生産物販売エリアは女性メインの交流空間となっている。また、ベルガマやイスタンブールでは女性の手工芸品の販売エリアがチャルシュや定期市の一角に設けられ、女性の交流の場が近年新たに登場している。

④ イベント

広場を中心に宗教的な行事や季節に合わせたイベントが開催され、住民だけでなく遠方からも多くの人が訪れ、交流空間となっている（写真3-09, 12, 13）。特にイスラームの断食月になると街は大きく変化する。イスタンブールではエジプト市場横の断食明けの食事を提供するテント（写真3-09）以外にも、スルタンアフメット界隈で断食月に設置される露店（写真3-12）もあり、夜、食事を終えた後にそぞろ歩きを楽しむ人々で埋め尽くされる。これらのテントや露店は、行政機関であるファティヒ区やイスタンブール市が設置しているものである。

⑤ 歩行者専有空間

街路の中でも歩行者専有の空間は、そぞろ歩きを楽しみ、ところどころにあるカフェで佇む人々と賑わう。イスタンブール新市街のメインストリートであるイスティクル通り（写真3-14）では、昼夜間問わず常時多くの人で溢れているが、時にはデモ行進

（写真3-15）や集会などでさらに多くの人が集まり、通行も困難な程、賑わうこともある。また、イスティクル通りから1本奥まった路地であるネヴィザーデ通りは、魚レストランが並ぶ通り全体を歩行者専有空間として、店の前の路上にテーブルを張り出し、通り全体が一体化している（写真3-16）。イスタンブールやイズミールのような海に面した都市は海岸沿いに広場や遊歩道（写真3-17）を設け、海の景色を楽しむことができるよう整備されている事例もあり、昼間だけでなく夕暮れ時にも多くの人が利用している。橋の場合も、単に欄干から景観を眺めることができるだけでなく、イスタンブールのガラタ橋（写真3-18）のように二重構造の橋の上の階で釣りをしたり、下の階に設けられた橋上レストランで景色と共に食事を楽しむなど、複合的な娯楽を提供しているスポットもある。

4. 考 察

多様な交流空間について要素ごとにその内容を確認してきたが、全体を通して見ると、センター領域には日常的な交流の場と非日常的で晴れやかな交流空間の双方が存在することがわかる。日常的な交流の場として、特に伝統的商業施設やチャルシュ内の店舗、チャイハネや床屋が挙げられる。伝統的商業施設は男女を問わず観光客の利用も多く見られるが、伝統的商業施設を含むチャルシュ内の働き手のほとんどは男性であり、チャイハネや床屋は男性のコミュニケーションの場として機能している。非日常的な交流空間は、イベント開催時や宗教的な行事に関連して発生する。宗教的なものに関しては宗教施設そのものも多くの人を集めるが、周辺の広場にはテントや露店が並ぶなど、非日常的な要素が加わり、期間限定の交流空間が生まれる。大都市では、施設や広場の他に歩行者専有空間の整備が進んでおり、センター領域における交流スペースが確保されている。この歩行者専有空間は日常的な交流の場としても機能しているが、居住地域と比較すると、周辺には多様な商業施設や娯楽施設があり、空間を埋め尽くしている人々も含め、非日常的な賑わいは晴れやかな様相を呈している。保存、修復された歴史建造

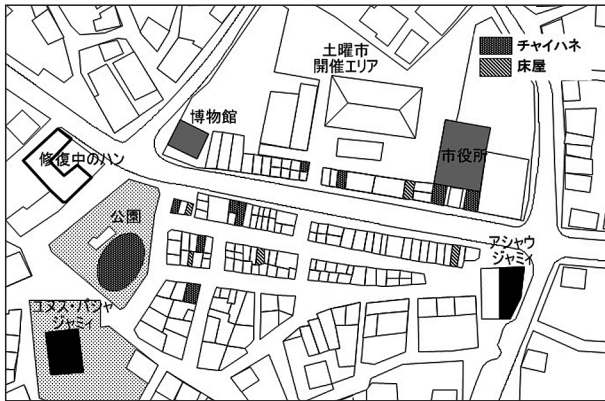


図2. タラクルの交流空間位置図

物や統一感のあるファサードなど、街並みによっても特色ある晴れやかな空間が演出されている。

次に、各都市におけるセンター領域内での交流要素の配置に共通する特色として、要素が点在していることが挙げられる。タラクルを事例に要素の配置を示したものが図2である。

タラクルの人口は3,000人弱と調査都市の中で最小規模の都市であるが、センター領域には床屋が5軒、チャイハネが10軒も存在している。モスク前の公園には木々に囲まれたオープンカフェがあり、イベント時には多くの人が集まる。また、土曜日開催エリアには毎週土曜に屋根の付いた市場施設とその周辺に露店が並び、タラクル周辺の村々の生産物を携えた人達もここで店開きをする。市場施設の一角には臨時のチャイハネもオープンし、市場と共に交流エリアを形成している。都市の規模によりセンター領域の構造は異なるが、交流を促す多様な要素が点在しながら都市を構成している点では共通している。

5. まとめ

日常的な交流空間はセンター領域以外にも多数存在している。一方、非日常的な交流空間は、センター領域が主要な都市施設や広場等によって構成されていることにより発生する交流空間であり、センター領域としての大きな特徴であることを確認した。

また、広場、街路、敷地内オープンスペースといった屋外空間の活用が各都市で見られた。中でも大都市では歩行者専有空間が整備され、特に 이스

ブルやイズミールのような水辺に面した都市では水辺空間の活用が特徴として挙げられる。トルコは地中海、エーゲ海、黒海と海に囲まれた国であり、それぞれ沿岸部の都市の水辺空間についても今後、調査を続行したい。

センター領域は交流空間に限らず多機能であり、多様な要素を内包している。本論文では交流機能に焦点を絞り、空間形態について考察したところ、共通点として18都市いずれも屋外で快適に過ごせる時期があり、屋外空間が多様な形で交流の場としても活用されていることがわかった。しかし、都市規模や地域によって異なる特性を見いだすまでには至らなかった。今後、調査地域を拡張するとともに調査都市の数を増やし、多様な視点で比較しながら分析を進める予定である。

註

- 1 トルコ語 *çarşı*。通り状の商店街だけでなく、屋根のかかったホール状の空間や中庭を有する商業施設など複合的かつ広域にわたるエリアを示す場合も多いため、日本語に適切な単語が見当たらず、本論ではトルコ語をカタカナ表記にして使用する。以下、関連用語を同様にカタカナ表記とする。
- 2 詳細は参考文献008参照。
- 3 トルコ歩行者空間調査(2006年8月)、トルコ都市・市場空間調査(第1回:2007年8月~第6回:2010年3月)、トルコ都市空間調査(第1回:2010年8月~第3回:2011年8月)において対象としてきた都市。
- 4 詳細は参考文献008参照。
- 5 トルコ語 *bedesten*。もともと高価な商品を扱う商業施設として建設されたもの。
- 6 トルコ語 *arasta*。通り状の商業施設。
- 7 トルコ語 *han*。かつての隊商宿。交易商人たちの宿泊施設や事務所として使用されてきた施設。
- 8 トルコ語 *çayhane*。トルコの紅茶チャイ(トルコ語 *çay*)の喫茶店。
- 9 人口は国勢調査に基づくものであるが、イスタンブール市は大都市のため、郊外への市街化が急速に進んでいる。そのため、中心部の人口についてトルコ各地方についての情報サイト YerelNet (<http://www.yerelnet.org.tr/>) を参考とした。
- 10 都市部の人口は2010年の国勢調査に基づくもので

あるが、大都市の場合、中心部の人口とし、トルコ各地方についての情報サイト YerelNet (<http://www.yerelnet.org.tr/>) を参考とした。イスタンブールでの要素の有無は表 2-5 でとりあげる 3 つの中心部の情報を合わせて記載する。

- 11 センター領域の構成図中にチャルシュ・エリア、定期市の開催エリア、歩行者専有空間、主要な都市施設を名称と共に記載する。都市施設の固有名称は市場、博物館、市役所については日本語に訳しているが、他の名称については原則的にトルコ語読みのカタカナ表記としている。カタカナ表記とした単語のうち、ジャミィ（トルコ語 cami）はモスク、メドレッセ（トルコ語 medrese）は神学校、キュリイエ（トルコ語 külliye）はモスクを中心とする複合都市施設、トゥルベ（トルコ語 türbe）は墓廟の意味である。

参考文献

001. Türk Kenti, Kemal Ahmet ARÛ, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998
002. Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System, Mustafa Cezar, Türkiye İş Bankası Cultural Publications, 1983
003. Türk Çarşıları, Gündüz Özdeş, Tepe Yayınları, 1998
004. 「トルコにおける歩行者空間の構成要素について」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 801 号, pp. 63-87, 2007
005. 「トルコにおける市場空間の特性に関する基礎的考察」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 814 号, pp. 53-74, 2008
006. 「トルコにおける市場空間の構成と活用に関する考察」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 820 号, pp. 30-50, 2009
007. 「トルコにおける市場空間の構成と活用に関する研究 その 2」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 832 号, pp. 46-65, 2010
008. 「トルコ諸都市のセンター領域と市場空間に関する基礎的考察」, 鶴田佳子, 昭和女子大学学苑, 第 844 号, pp. 10-24, 2011
009. YerelNet（トルコ各地方についての情報サイト）
<http://www.yerelnet.org.tr/>, 2010/11/20

謝 辞

本研究は、平成 22～24 年度科学研究費補助金、基盤研究 (C)「トルコ諸都市におけるセンター領域の空間形態と特性に関する研究」(研究代表者: 鶴田佳子) の助成を受けて、研究の一環として行われたものである。また、トルコ各地での調査において、行政機関及び現地の方々に多大なるご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。

(つるた よしこ 現代教養学科)